

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	ここわ保育園
法人名	株式会社ディアローグ
法人所在地	東京都渋谷区渋谷3-8-12 渋谷第一生命ビルディング7階

## 1. 活動のテーマ

### <テーマ>

当園が開園以来継続して行っている教育活動の中の【英語】を活かしながら【ことば】についての探究活動を実践し、非認知能力の向上等の保育内容の充実を図ります。2025年度はことばの中でも英語と日本語の【オノマトペ】に注目をします。

### <テーマの設定理由>

当園は開園以来、外国人英語講師が週2日来園し、レッスンでは保育者も生徒として園児と一緒にレッスンを受け、保育者も園児も英語は身近なことばとして存在しています。2024年度は子どもたちが同じ絵本、同じメロディの歌を日本語と英語で体験、体感することで、ことばに対する興味が広がりました。2025年度は子どもたちがさらに主体性を持って活動するように、ことばの中でも英語と日本語の【オノマトペ】に注目しようと考えました。またこの【オノマトペ】は乳児にも取り組みやすいテーマではないかと考えました。

## 2. 活動スケジュール

【問いかけ】保育者が動物の鳴き声について問いかけました。「この動物はなんて鳴くか知っている?」「動物園で何て鳴いていたか聞いたことがある?」「ステファニー先生は英語の先生だけれど、英語でも同じ鳴き声なのかな?」

【流れ】英語講師の来園日には、英語で動物の鳴き声の入った歌を歌ったり、動物以外の擬態語や擬音語《オノマトペ》の入った英語絵本の読み聞かせなどを行い、保育者は子どもたちと一緒に参加します。また自由遊びの時間に保育者が日本語で動物の鳴き声の入った歌を歌い、英語講師は子どもたちと一緒に参加します。また皆で一緒に英語で使っている絵カードで《オノマトペ》遊びをします。このように、子どもも大人も一緒に英語と日本語での《オノマトペ》を共有します。発話が難しい乳児クラスでも日本語、英語の《オノマトペ》を体験します。

【探究活動の実践と記録】英語活動の際には保育者が記録し、日本語活動の際には保育者とともに英語講師も記録し、特に子どもが英語を発している際のことばや音の聞き分けを担当しました。

\*読み聞かせ：0，1，2歳児クラス

\*歌：0，1，2歳児クラス

\*カード遊び：0，1，2歳児クラス

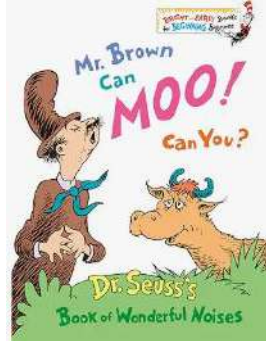
【振り返りや共有】毎月月末に英語講師と職員のブリーフィングをおこなっているので、そこで探究活動の共有を行い、次月の問いを考え環境設定や探究活動のスケジュールを話し合います。保育者同士は職員会議で振り返りや共有を行います。

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【環境設定】 英語講師の来園日に探究活動を行うよう環境を設定しました。

【素材】

- \* 同じメロディの日本語と英語の歌：「ゆかいな牧場」と"Old McDonald had a farm"
- \* 絵カード：動物、乗り物、オノマトペ絵カード
- \* 英語のオノマトペ絵本："Mr. Brown can moo"
- \* 動物の鳴き声など擬音語：どうぶつなきごえ図鑑



#### 4 -①. 探究活動の実践（日本語）

<活動の内容>①「ゆかいな牧場」を保育者が日本語で歌う。英語講師も同席して一緒に聞く。

クラス：0歳児クラス、1歳児クラス、2歳児クラス

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・ 0歳児…保育者の歌に合わせて手を叩いたり、身体を揺らしたりして楽しんでいた。
- ・ 1歳児…椅子に座り給食前に保育者が歌いながらリズムに合わせて身振りすると、2人の園児は保育者の真似をして身体を動か楽しむ姿が見られた。
- ・ 2歳児…初めて聞く歌だったが、保育者の真似をして楽しんでいた。繰り返し行くと理解して覚えてたてではあるものの口ずさむ姿が見られた。

4 -①. 探究活動の実践（英語）

<活動の内容>①「ゆかいな牧場」と同じメロディ"Old McDonald"を英語で歌う。英語のオノマトペの絵本"Mr.Brwon can say moo!"を英語講師が読み聞かせる。

クラス：0歳児クラス、1歳児クラス、2歳児クラス

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・ 0歳児…集中して歌や絵本の見聞きをしていた。
- ・ 1歳児…日本語バージョンの歌に親しんでいたこともあり、手拍子をしたり動物のしぐさを真似しながら楽しむ姿が見られた。また、男児1名はその後眠る前に「イーアイイーアイオー」と口ずさんでいた。
- ・ 2歳児…聞き慣れた歌だったので講師の歌う姿に、身振りをつけながら楽しんで聞く姿が見られた。またすぐに覚える子も数名おり、フレーズごとに口ずさむ子もいた。



5 -①. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】2024年度からの続きで、同じメロディを日本語と英語で歌ってみることで、違う部分や、同じ部分を子どもたちが気づくようになってきた。一方で2歳児は0歳児から英語の時間があり、0歳児から"Old McDonald"の歌に慣れ親しんできたため、日本語の歌「ゆかいな牧場」のほうに戸惑いが見られた。これは2歳児が日本語英語という言葉に関係なく、どちらの言語の歌に慣れ親しんできたかに左右されていることが分かった。

【次回への問い】歌ではなく別の素材、例えば英語のレッスンで使用しているカードをレッスンで使う場合と、自由遊びの中で同じカードを使うことで、子どもたちは英語をより発するようになるのか、またどのようにカードを使って活動するのだろうか？

#### 4 -②. 探究活動の実践（英語絵カードを英語レッスン中に使う）

<活動の内容>②英語レッスン中に"Animal"(動物) の英語絵カードを使う

クラス：0歳児クラス、1歳児クラス、2歳児クラス

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・ 0歳児…自分の好きな動物カードを見つけると、動物を自宅で飼っている園児もいるため指差しをして「わんわん」「にゃんにゃん」などの擬音語を発する子がいた。
- ・ 1歳児…講師が動物のカードを指さしながら名前を鳴き声を子どもに伝えようと、興味をしめし一緒に見たり、「バタフライ」と名前を呟いたりしていた。
- ・ 2歳児…カードの動物と鳴き声が一致する子も数名いた。動物が好きな子が多いため全体的に意欲的に取り組む姿が見られた。



#### 4 -②. 探究活動の実践（英語絵カードを自由遊び中に使う）

<活動の内容>②自由遊び中に"Animal"(動物) の英語絵カードを使う。（子どもたちがどのように見立て遊びをするのか、また英語で使っているカードなので、レッスンではなくても英語で言うのか。また英語講師同席の場合と、そうでない場合の遊び方にも違いが出てくるのかなど）英語と日本語のどうぶつなきごえを比較した後、本当の動物のなきごえを図鑑を通して皆で聴く。

クラス：0歳児クラス、1歳児クラス、2歳児クラス

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・ 0歳児…「どうぶつのフラッシュカード」は、「どうぶつずかん」で鳴き声を聞きながら同じカードを見せると手に取り喜ぶ姿が見られた。
- ・ 1歳児…英語講師が動物のカードを指差しながら名前と鳴き声を子どもに伝えようと、興味を示し一緒に見たり、「バタフライ」と名前を呟いていた。
- ・ 2歳児…「どうぶつのフラッシュカード」を用いて英語講師と鳴きまねをしたり知っている動物の名前を英語にして発する姿が見られた。「どうぶつのフラッシュカード」は英語のレッスンの時に使用するので、子どもたちも日本語ではなく英語で動物の名前を言っていた。

#### 4-②. 探究活動の実践（日本語でも英語でもなく、本当の動物のなきごえは？）

<活動の内容>②自由遊び中に動物のなきごえの図鑑を使って本当の動物のなきごえを皆で聴く。

クラス：0歳児クラス、1歳児クラス、2歳児クラス

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・ 0歳児…「どうぶつずかん」を見ながら、鳴き声を聞くと笑顔になり講師と一緒に鳴き声のボタンを押すことを楽しんでいた。
- ・ 1歳児…動物の絵を押すと鳴き声ができる「どうぶつずかん」は、押すのが楽しくて好きな動物の絵を繰り返し押し鳴き声を真似る姿が見られた。
- ・ 2歳児…意欲的に「どうぶつずかん」のボタンを押し、擬音を発し真似しながら楽しむ姿が見られた。



#### 5-②. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】動物に関しては全クラス絵本などを通して馴染み深いこともあり、意欲的に参加し楽しんでいた。1，2歳の園児に関しては絵カードと鳴き声がしっかり一致し擬音語で発生している子も数名いた。自由に遊ぶにはまだ若干難しかったようで、保育者が一緒にクイズを出したりしながら楽しんでいた。

【次回への問い】英語絵カードを違う種類にすることで、動物の鳴き声ではなく、また違うオノマトペに子どもたちはどのように気づき反応するだろうか？



#### 4 -③.探究活動の実践（英語絵カードを自由遊び中に使う）

<活動の内容>③英語講師との自由遊び中に"Vehicle"(乗り物)の英語絵カードを使う

クラス：0歳児クラス、1歳児クラス、2歳児クラス

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・0歳児…乗り物カードに自ら触れたり、声を出して反応をしたり興味をもちながら積極的に楽しむ姿が見られた。
- ・1歳児…知っている乗り物の名前を言葉で発したり、他児や保育者に伝えてくる姿が見られた。英語講師の声を聞きながら口を動かして真似しようとする姿が見られた。それぞれ自分の好きなカードを嬉しそうに触っている姿が見られた。
- ・2歳児…英語講師の表現する擬音を真似しながら発する姿が見られた。また繰り返し見ていううちに絵カードを見ただけで子どもたちから発することが出来ていた。

#### 4 -③. 探究活動の実践（英語絵カードを英語レッスン中に使う）

<活動の内容>③英語レッスン中に"Vehicle"(乗り物)の英語絵カードを使う

クラス：0歳児クラス、1歳児クラス、2歳児クラス

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・0歳児…講師に名前を呼ばれると反応し、名前カードを貼られるのを目で追っていた。船のカードに自ら触れたり英語講師の用意したバスと船のカードを使い「バスはどちらか」の問いに対し、皆質問されたカードを選ぶことが出来ていた。
- ・1歳児…英語講師に名前を呼ばれると「I'm here」と答える姿が見られた。隣の友だちからカードを受け取る際にお辞儀をする姿が見られた。数回繰り返すと、子ども同士で絵カードの受け渡しが出来るようになった。
- ・2歳児…英語講師に名前を呼ばれると「Here」と大きな声で返事をし「Here you are」「Thank you」などの簡単な英会話をすることが出来ていた。また乗り物の絵カードを見て講師の真似を、ジェスチャーをしながら単語を話す姿が見られた。



### 5-③. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】乗り物は男児を中心に、興味を示す子が多かった。2歳児は乗り物の絵カードを隣の子に渡す祭にしっかりお辞儀をしたり、ルールを理解している様子が見られた。乗り物の運転動作のジェスチャーは真似をして楽しむ姿が見られた。簡単な英語でのやり取りを、好きなカードを通して行うことが出来ていたので引き続き興味を引き出せる教材選びもしっかり確認していく。

【次回への問い】英語講師、保育者も含めて子どもたちとオノマトペの絵カード遊びを通して子どもたちは擬音語や擬態語にどのように興味を深めていくのだろうか。

### 4-④. 探究活動の実践（オノマトペ絵カード）

<活動の内容>④保育者、英語講師と一緒に絵カード遊びをする：絵を見て子どもたちが擬音語、擬態語を言う。英語講師も英語で擬音語や擬態語を言う。

クラス：0歳児クラス、1歳児クラス、2歳児クラス

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・0歳児…絵カードではなく日本語、英語共に保育者や英語講師の発する音を模倣することを楽しんでた。保育者や英語講師のオノマトペを真剣に聞いたり、模倣しながら言葉を真似する姿が見られた。

・1歳児…納豆の絵→「納豆」とは答えることが出来たが「ねばねば」は言えなかった（出てこなかった）。手を叩いている絵→保育者の手を叩く真似は出来たが、「ぱちぱち」は出てこなかった。リスがイチゴを食べている絵→「リス」「いちご」は言うことができたが「もぐもぐ」は言えなかった（出てこなかった）。

・2歳児…日本語と英語でオノマトペの言い方が異なるため、やや戸惑う姿が見られたが、繰り返していくと少しずつ理解を深め擬音語も発することが出来ていた。



#### 5-④. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返りと次回への問い】絵カードと擬音語の結びつきに関しては、少し0歳児、1歳児には難しかったのかもしれない。繰り返し行うことで少しずつ身についていくものであることが分かったので、普段の園生活の中でも伝えていこうと思う。一年を通して行った「オノマトペ」は、生活するうえで様々な場面でも役に立つことなので引き続き継続していきたいと思う。